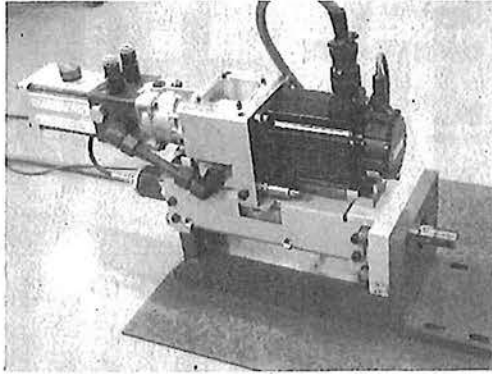


消費電力90%削減

南武

南武（横浜市金沢区、野村伯英社長、045・791・616）は、一般的な油圧アクチュエーターに比べ消費電力を最大90%削減できる電動油圧アクチュエーターを開発した。第1号としてトヨタ自動車の工場に採用された。4月1日に一般発売する。工場の二酸化炭素（CO₂）排出量削減に役立つ製品で、企業の環境意識の高まりを追い風に拡販する。初年度に売上高3億円を見込む。

電動油圧アクチュエーター



一般的な油圧アクチュエーターを1ユニットは、複数のユニットに接続し、アクチュエーターが動いていない時もポンプが回

企業の環境意識の高まりを追い風に拡販する「電動油圧アクチュエーター」

第1号、トヨタに納入

CO₂排出量削減に貢献

電気消費し続ける。新製品の「eEZ（消費税込み）」から。eEZは、アクチュエーターごとに電気式制御ユニットと油圧ポンプを取り付けており、非稼働時の電力消費がほぼゼロとなる。車のアイドリングストップのような機能を搭載する。油圧シリンダーのため高出力ながらサーボモーターとボールネジを組み合わせた電気式を組

アクチュエーターと同様の立ち上がり、高精度位置決めを実現。フィードバック制御も可能。油の配管が必要なく電源があればどこでも簡単に取り付けられる。モーター出力は2馬力、シリンダー径80mm、定格出力（押し）約30馬力の製品の場

合、価格は約90万円（消費税込み）から。ESG（環境・社会・企業統治）投資や、国連の持続可能な開発目標（SDGs）への取り組みの広がりもあり、省エネルギー、CO₂削減に取り組む企業は増えている。画期的な省エネ性能を強みに、工場内で使われる既存の油圧アクチュエーターからの置き換えを狙う。